

徳川みらい学会第5回講演会

「徳川家康と黒田官兵衛」

静岡大学名誉教授 小和田哲男氏



徳川みらい学会の第5回講演会を11月1日(土)、静岡市民文化会館で開催しました。講演会の講師は静岡大学名誉教授 小和田哲男氏。豊臣秀吉の天下取りを支えた黒田官兵衛と徳川家康公との接点について語っていただきました。

要旨は次のとおりです。

情報網を持っていた官兵衛

黒田官兵衛は最初から秀吉の軍師だったわけではなく、姫路城の近くにある御着城の城主小寺政職の家老でした。西からは毛利輝元、東からは織田信長に攻め入れられる危険性のある中で、「黒田家譜」という史料によると、大多数の家老が毛利家につくことを意見していました。しかし官兵衛は織田家に従属することを提案しました。これには、遠く離れた地で起こった為、他の誰もが知らなかった「長篠・設楽原の戦

い」で織田信長が武田軍に勝利したということ、情報として掴んでいたためでした。

家康を秀吉に臣従させる官兵衛の策略

信長の播磨平定の際に送りこまれた大將が秀吉であったことから、その後官兵衛は秀吉の軍師として、手腕を発揮することになります。小牧・長久手の戦い以降、秀吉は家康を自分の家臣にするため、妹である朝日姫を家康に嫁がせました。これは史料には記載されていませんが、きつと官兵衛が工作していたのではないかと思っています。

小田原城の無血開城

秀吉の小田原攻めの際には、小田原城に籠城した北条氏政に対し、官兵衛は武器を持たず城内に乗り込み、説得することに成功します。難攻不落といわれた小田

原城を無血開城できたことは官兵衛の役割が大きかったのです。

黒田家と石田三成

秀吉の弟の秀長が病死して以後、中枢として活躍した石田三成と官兵衛はライバル関係にありました。官兵衛隠居後、黒田家を継いだ官兵衛の息子である長政も大の三成嫌いで、家康の養女栄姫と結婚したこともあり、家康についています。そのような状況で関ヶ原の戦いを迎え、長政は東軍家康側で活躍をしました。

同時期に九州版関ヶ原とも言える「石垣原の戦い」が起こります。出家し「如水」となった官兵衛は、居城の中津にて貯蓄していた金で百姓を集め、大友義統の軍勢と戦い、勝利します。この頃、九州の大名は関ヶ原のほうに出向いており、城には留守部隊がわずしかいない状況であり、官兵衛はほとんどと西軍の諸城を落としてい



きました。九州全土を平定し天下を狙ったという説もありますが、秀吉の跡を継いだ秀頼を、三成よりも家康に託したかったというのが本音だったように思えます。

黒田官兵衛は、自分が秀吉の天下取りを支え、息子長政が家康の天下取りを支え、親子2代で、長い戦国乱世に終止符を打つ結果になったことに満足していたのでしよう。



個人・法人会員を随時募集しています。皆さまのご入会をお待ちしております。

〈お問い合わせ〉 徳川みらい学会事務局 〈TEL〉 284-9660 〈H P〉 [徳川みらい学会](#) [検索](#)